

## 第1部 「21世紀兵庫長期ビジョン-2040年への協働戦略」策定の趣旨

21世紀兵庫長期ビジョンは、県民主役・地域主導のビジョンとして2001年(平成13年)に策定した。その後、人口減少などの時代潮流の変化に伴い、さまざまな地域課題が顕在化する一方で、県民の地域活動の積み重ねから、めざす社会の姿がより明らかになりつつある。

このような状況変化を受けて、ビジョンがより分かりやすく、より取り組みやすい兵庫づくりの指針となるよう、「創造的市民社会」「しごと活性社会」「環境優先社会」「多彩な交流社会」の4つの社会像を踏まえた、新しいめざす姿を示すとともに、実現のための取組方向を示した「21世紀兵庫長期ビジョン-2040年への協働戦略」(全県ビジョン改訂版)として全県ビジョンを見直す。

また、全県ビジョンと並行して、地域ビジョンにおいても点検と地域像の見直し、これに対応した県民の取組方向の具体化を行い、改訂版としてとりまとめる。

今後、地域と全県が支え合うビジョンとして、これらに示しためざす姿や実現のための方策に基づいて21世紀の兵庫づくりを着実に推進していく。

第1部では、本改訂版策定の趣旨として、全県ビジョン点検・見直しの必要性、ビジョンの実現状況と4つの社会像の意義、改訂にあたっての展望年次と想定年次、性格と役割、さらには改訂版の構成を示す。

### 1 全県ビジョン点検・見直しの必要性

#### (1) 予想を上回る時代潮流の変化とそれに伴う地域課題の顕在化

2001年(平成13年)のビジョン策定時には、少子・超高齢社会への移行、価値観の多様化やネットワーク型コミュニティの形成など社会の成熟化、経済のグローバル化と大競争時代の到来などボータレス化の進展、地球温暖化や資源の枯渇など環境に関する危機的時期の到来、高度情報社会の展開などが想定されていた。

本県のピーク時の総人口は、2011年(平成23年)の574万人、2030年(平成42年)の人口は536万人と推計していたが、その後の調査研究で、ピーク時の人口は現在の559万人、2030年の人口は512万人と見込まれるなど、人口減少がより加速する可能性が明らかになった。

また、その中で、家族や地域のつながり、ライフスタイルが変化する中での生活の豊かさ、地域と世界が一体化する時代の兵庫の役割、さらには、少子高齢化、人口の地域偏在などが引き起こす都市や多自然地域での地域構造のそれぞれの側面から潮流を見極める作業を行ったところ、ビジョン策定当初の想定を越える時代潮流の変化とその中で地域が直面する課題群が明らかになってきた。

#### (2) さまざまな県民主体の地域活動の積み重ねより見えてきた「めざすべき姿」

ビジョンは県民誰もが目標として共有できる望ましい社会の姿を描いたものであり、さまざまな主体の参画を得て、議論を深めるコミュニケーションの手段、議論の素材でもある。

5期10年の地域ビジョン委員の活動をはじめ、県民のさまざまな地域活動の広がり、

ともすれば抽象的なビジョンの社会像に対し、具体的な活動でより分かりやすく、取り組みやすい形でめざすべき姿を明らかにしつつある。

例えば、本格的な人口減少の到来を控え、小規模集落元気作戦や地域ビジョンでの都市住民の田舎暮らし支援などの取組を通じた二地域居住や都市農村交流により、「多彩な交流社会」で描いた「交流人」が活躍する姿がより具体的なものとなっている。

さらに、策定から10年を経て新たに生じた課題や各地で始まっている先進的な取組や県民の夢をより具体的に示すことで、ビジョンを進化・充実させ、県民の多様な意見を引き出し、さらなる取組の深化につながっていくことが期待される。

こうした状況を踏まえ、21世紀の兵庫づくりに向けた取組が一層広がるよう、ビジョンをより分かりやすく、より取り組みやすい形へと充実していく必要がある。

## 2 ビジョンの実現状況と4つの社会像の意義

全県ビジョンを策定するために各地域での夢会議などを通じた数多くの県民の意見と、各地域のビジョンがとりまとめられる中で、共通する方向性として、「『個』の確立と自律的市民社会の形成」「創造的な産業社会といきいきとした働き方の実現」「持続可能な循環型社会の構築」「個性豊かな地域づくりと交流・連携の推進」の4つの基本課題が示された。

全県ビジョンの4つの社会像「創造的市民社会」「しごと活性社会」「環境優先社会」「多彩な交流社会」は、この基本課題に対応するものである。

策定以降、各地域ビジョンにおける県民行動プログラムをはじめとする県民のさまざまな主体的活動の展開と、地域の活動を支援し基盤整備を進める県政の展開により、ビジョンで描く社会像は、次のとおり概ね実現に向けて進みつつあると考えられるが、地域での支え合いのしくみの再生、地域産業の振興、就業機会の拡大、温室効果ガスの削減、防災・減災基盤の確立、集落空間劣化への対応などの課題も明らかになってきており、これらに対して引き続き取り組んでいくことが求められる。

また、成熟社会の到来、人口減少社会の本格的到来など、時代潮流が変化する中で、支え合いによる安全安心の暮らし、地域資源を活用した創造的なしごとづくり、自然と調和した持続可能な地域づくり、地域間の連携や世界との交流拡大などの取組はより重要性を増しており、4つの社会像の意義はさらに高まっていると考えられる。

### (1) 創造的市民社会

策定時に描いためざす姿とその背景

「創造的市民社会」とは、県民一人ひとりの能力や可能性を最大限に発揮できるとともに、自律した人たちが互いに支え合いながら安心して健康に暮らせる社会である。

21世紀は人を中心にした市民文明社会が出現し、数多くの課題に取り組み、未来を模索しようとする元気な担い手が登場するという時代認識、さらには阪神・淡路大震災におけるボランティア活動のかつてない広がりが高まりが、この社会像を描く背景にあった。

実現状況

#### ア 一人ひとりが主体的に行動する新しい市民社会

県民誰もが個として尊重され、また、地域の中で個人の能力を生かす機会や取組が広がる中、夢の実現に向けた県民一人ひとりの主体的な活動が広がるとともに、地域課題の解決に向けて多様な主体が連携・参画し、幅広い分野で活動を展開している。その一方で就業機会における若者の格差感、地域間格差が拡大しつつあり、誰もが共に生きる意識のもと、支え合いにより希望が持てる社会を構築していくことが課題として残っている。

#### イ 個人の能力や可能性が最大限に発揮できる社会

子どもたちの豊かな心を育む環境が整い、地域の芸術文化活動や多様な生涯学習のしくみが充実することで、生涯の各段階における学びへの挑戦が広がっている。また、しごとと生活の両立に向けたさまざまな主体による取組やユニバーサル社会づくりに向け

た取組など、一人ひとりが個性と能力を生かして働く環境づくりが進捗したことにより、個人の能力や可能性が発揮できる社会に向けて進みつつある。

#### ウ 生活の基盤が保障され、健康で安心して暮らせる社会

県民一人ひとりの健康づくりへの取組が広がり、地域における保健医療サービスの充実が全体としては進んでいるが、地域偏在は解消されておらず、医師や福祉人材などの確保が引き続き課題となっている。また、防犯、防災など安全安心な生活に向けた共助のしかけが地域コミュニティに定着しつつあるほか、情報通信技術を活用した生活情報の提供、交換が活発に行われるなど、健康で安心して暮らせる社会に向けて進みつつある。

#### 社会像の意義

一人ひとりがその能力を最大限に発揮し、主体的に行動するとともに、少子高齢化、人口減少などの時代潮流の変化を踏まえながら、人や地域のつながりを深めることで個が自立し、地域社会の協働と自立に向けた活動を行うことが求められる。また、地域での支え合いにより生活の基盤や安全安心が確保され健康に暮らせる共助社会をめざす必要性はより高まっており、創造的市民社会の意義はさらに高まっていると考えられる。

### (2) しごとと活性社会

#### 策定時に描いためざす姿とその背景

「しごとと活性社会」とは、「しごと」を生活の糧を稼ぐ労働というだけでなく、生きがい、地域に対する貢献として捉え、県内の産業資源を有効活用し、進取の気風に富む発想や創造力が生かされることで、多様で柔軟な働き方が実現し、しごとを産み広げる創造的な産業社会である。

兵庫経済を牽引する基幹産業や成長産業だけでなく、地域住民が主体となり、自らの地域活動を事業として展開するなど、成熟社会に応じた新しい働き方が広がりつつあるという時代認識があった。また、しごとの意味を多面的に捉える必要性が高まっていたことがこの社会像を描く背景となった。

#### 実現状況

#### ア 創造的な働き方ができる社会

企業、NPO、行政などが協働した就業支援が充実する中で、しごとにやりがいを感じ、しごとと生活の両立ができるなど、個人の価値観に応じた働き方を実現できる環境が整いつつある。女性、高齢者、障害のある人など多様な主体が活躍できるしごとの場についても県内に広がりつつあるが、依然として厳しい雇用情勢が続いており、誰もが生きがいを感じながら働けるしごとの場の創出に引き続き取り組むことが求められる。

#### イ 新しいしごとにチャレンジできる社会

大型放射光施設などの先端科学技術拠点を活用した取組や高い技術力を有する企業の県内への進出と集積が進み、健康・医療、環境・エネルギー、情報通信などの分野を中心に、新

産業や成長産業の創出に成果を発揮しつつある。また、中小企業の支援や起業支援などの充実により、兵庫の蓄積や地域の個性を生かした新しい挑戦が進みつつある。

#### ウ 多様なしごとが地域の活力を育てる社会

技術の高度化や新分野への進出、新たな販路開拓などによる地場産業の活性化、商店街のにぎわいづくり、農林水産業の経営基盤の強化など、地域資源を活用した産業の再生が各地域で進みつつあり、独創的な技術・ノウハウを有する企業の活躍も見られるが、地域産業全体としては依然として厳しい状況にあり、引き続き、地域の強みを最大限引き出すための取組が求められる。

##### 社会像の意義

個人の価値観に応じた働き方が可能となり、新しいしごとに挑戦できるなど、多様なしごとで地域の活力を育てることをめざしつつ、人口減少や世界規模での構造変化が進む中で、地域課題の解決に向けた活動をしごとにするによって、新たな働き方を大きく発展させていくことや、地域資源の徹底した活用によって、地域固有の産業が世界化の流れを追い風にして新たな展開を見せる社会をめざす必要性がより高まっている。こうしたことから、多様なしごとを生み広げるしごと活性社会は現在も変わらぬ意義を持っているといえる。

### (3) 環境優先社会

#### 策定時に描いためざす姿とその背景

「環境優先社会」とは、兵庫の特性を生かして、人の営みと自然が高い次元で調和し、美しい景観のもとで健康で快適な生活と社会的・経済的発展が両立する持続可能な循環型の社会である。

20世紀型の拡大と成長をめざす人間活動は、地球規模での環境破壊を招き、人類自らの存続さえ脅かしつつあるという時代認識があった。また、省資源、リサイクル、自然環境保全などの活動への関心は高く、参加が広がりつつあったことがこの社会像を描く背景にあった。

#### 実現状況

##### ア 人と自然が調和した健康で快適な「共生と循環」の社会

コウノトリの野生復帰、尼崎21世紀の森など自然再生、生物多様性保全、資源循環、地球環境保全に向けた取組がさまざまな主体の参画のもとで広がっており、共生と循環の考え方が県民に浸透し、豊かな自然を次代に継承しようとする意識が高まっている。一方で、野生動物の計画的な管理、温室効果ガスの排出抑制などへの継続した対応、自然との共生を図った安全安心の基盤づくりが求められる。

##### イ 循環に即した生活・経済活動が確立した社会

レジ袋削減運動などの展開よりごみ排出量の削減、再資源化が進むなど、消費・廃棄から循環への価値観の転換が図られ、人間の活動が環境に与える負荷が低減しつつある。

体験型環境学習を通じて、循環に即した行動を次世代に伝えるしくみが地域一体で整いつつある。各地で環境創造型農業が展開されるなど、産業活動においても環境優先、資源循環の考え方が普及している。一方で、産業廃棄物の低減に向けたさらなる取組が求められる。

#### ウ 循環を促すさまざまなしくみが整った社会

県民緑税による森づくりや都市緑化など適切な誘導のしくみが整いつつあり、顕彰制度など環境保全に貢献した主体の行動も適切に評価されている。県民による環境保全や地産地消の取組が進み、都市と農山漁村が連携した地域での循環のしくみも形成されつつある。太陽光など再生可能エネルギーの普及、導入とともに、県民、事業者、行政が一体となった資源・エネルギーが循環する総合的なしくみを構築していくことが求められる。

#### 社会像の意義

世界的に人口が増加していく中での食やエネルギーなどの資源制約、気候変動や開発による生態系の破壊など、地球の限界を認識する必要性が増している。その中で、多様な生物の共存が図られ、豊かな自然の恵みを生かした産業の持続、資源・エネルギーが循環するしくみの構築、さらには自然災害に対応する安心安全の基盤づくりなど、自然との調和を基本とした自給・持続の地域づくりが求められており、共生と循環をめざす環境優先社会の意義はより高まっていると考えられる。

### (4) 多彩な交流社会

#### 策定時に描いためざす姿とその背景

「多彩な交流社会」とは、自然に満ちた景観と多様な人々とのふれあいや、身近な生活空間の整備を通じ、地域特性を生かした魅力ある地域づくりが進み、県民が自らの地域を誇り、多様な交流の中で豊かな生活を築くことのできる社会である。

少子・高齢化が進み、定住人口の減少が始まる中で、地域の活力を高めていくため、個性を生かした地域づくりや、地域間の多様な交流を深めていくことが重要であるとの時代認識がこの社会像を描く背景となった。

#### 実現状況

##### ア まちの暮らしにふれあいや安らぎがある社会

道路・河川・都市整備など社会基盤の充実が図られ、安全安心かつ快適に活動できる基盤が整いつつあり、その効果が県民に実感されている。また、ユニバーサルなまちづくりも進みつつあり、高齢者、障害のある人などにとっても暮らしやすさが増しており、県民一人ひとりの暮らしに安全や安らぎが確保されつつある。風水害など自然災害の相次ぐ発生や東海・東南海・南海地震への備えなど、防災・減災基盤の一層の充実が求められる。

## イ 個性輝く都市やまちから世界へと交流が広がる社会

地域再生大作戦などの取組により、都市農村交流、地域間の交流・連携が活発になりつつあり、住民主体の地域づくりも広がってきた。今後、人口減少により存続が困難な集落の増加が予想されることから、空き空間や地域資源を活用した一層の交流の広がりが求められる。また、国際的な防災・人道支援の拠点が形成されるとともに、防災、環境などの分野で国境を越えた課題解決に向けた取組が進むなど、世界との交流が活発になっている。

## ウ 交流を育む基盤としくみが整った社会

高速大容量の通信基盤や多軸・多重の交通基盤の整備が進み、どこに住んでいても都市的サービスを手に入れるようになり、地域や都市の間で人やモノ、情報の移動が活発化してきた。また、社会基盤整備の計画段階からの住民の参画が増え、地域に愛着を持ち、責任を分かち合いながら協働して取り組む生活者優先のまちづくりが進みつつある。

### 社会像の意義

今後の人口減少を見据え、均衡ある県土の発展のため、生活に必要なサービスが提供される快適な地域づくりに取り組むとともに、人の交流や広域から狭域までさまざまな地域間の連携を深めて地域課題を解決し、地域に活力をもたらすことや、世界との交流拡大にも積極的に取り組んでいくことがこれまで以上に重要性を増している。このため、まちの暮らしにふれあいや安らぎがあり、個性輝く都市やまちから世界へと交流が広がることをめざす多彩な交流社会の意義はより高まっているといえる。

### 3 展望年次・想定年次 ~ 展望年次を 2030 年から 2040 年に ~

全県ビジョンでは、将来を考えるために見通しておく時期を「展望年次」とし、ビジョン実現に向けた取組の時期を「想定年次」としている。

ビジョン策定から 10 年が経過したことから、展望年次については策定時の 2030 年(平成 42 年)頃から 10 年先の 2040 年(平成 52 年)頃とし、想定年次については策定時の 2010 年(平成 22 年)頃から 2020 年(平成 32 年)頃とする。

《全県ビジョン策定時(平成 13 年 2 月)の展望年次・想定年次》

21 世紀に誕生した人たちが成長して、新しい価値観を持って社会を支え始める 2030 年頃を展望しつつ、人口の減少が始まり、本格的な少子・超高齢社会に移行すると考えられる「2010 年頃」を想定年次とした。

	ビジョン策定時	今回改訂
展望年次	2030 年(平成 42 年)頃	2040 年(平成 52 年)頃
想定年次	2010(平成 22 年)頃	2020 年(平成 32 年)頃

## 4 性格と役割

### (1) 県民主役・地域主導のビジョンとして自立的な地域づくりの羅針盤

全県ビジョンは、県民自らが主体的に地域の夢や将来像を描くことに参画することを基本に、その実現に向けて各主体が責任を果たしつつ協働するという視点、さらには広大で特色ある地域からなる県土構造を踏まえ、各地域が多様な特性を最大限に発揮するしくみづくりを進めながら、兵庫全体の発展を図るという視点を重視している。

こうした県民主役・地域主導のビジョンとして、将来像の実現状況を県民とともに確かめるツールであるとともに、住民をはじめ地域づくりに取り組む人たちが自立的な活動を実践していく上での新しい気づきをもたらす羅針盤としての役割を果たす。

### (2) 地域ビジョンの実現を支援するとともに、市町、他府県域との連携・協働を図る指針

全県ビジョンは、地域の課題や将来像の議論の共通項から全県的な視点でめざすべき将来像を抽出し、さまざまな全県視点の意見とあわせて、4つの社会像にまとめて策定された。

この考え方はこのたびの点検・見直しにおいても踏襲されており、地域ビジョンが全県ビジョンの社会像を支え、同時に、全県ビジョンは各地域の取組や地域を越える取組を推進するために必要なしかけやしくみづくり、地域ビジョンを支援していく全県の基礎的部分の役割を担う。

全県ビジョンは地域ビジョンとともに、将来像を市町と共有しながら、主体的な市町行政が展開されるよう、市町の総合計画や施策との連携・協働を図る指針となる役割を担う。

また、関係する府県域と連携した効果的・効率的な取組に対応できるよう、他府県の総合計画や施策との連携・協働を図る指針となる役割も担う。

### (3) 県の各分野計画などとも将来像を共有し、県政諸施策に反映

全県ビジョンが示す4つの社会像を尊重しながら、ビジョン策定時に想定していなかったその後の変化を踏まえた上で、新たなめざす姿である将来像を分かりやすく示すとともに、将来像を実現するためのさまざまな主体による取組方向を提示することで、長期ビジョンをより力強く推進する役割を果たす。

また、将来像を実現するためには、さまざまな地域課題の解決や地域の個性と特色を生かした兵庫づくりに県政を挙げて取り組む必要があることから、全県ビジョンは、県政の基盤、枠組みづくりとなる行財政構造改革の取組とも整合を図りつつ、地域ビジョンとともに、県行政の総合的かつ計画的な運営指針として、各分野計画などにも反映し、将来像を共有しながら各種施策の総合的・計画的な実施を図る。

## 5 構成

第1部 「21世紀兵庫長期ビジョン - 2040年への協働戦略」策定の趣旨	
1 全県ビジョン点検・見直しの必要性	2 ビジョンの実現状況と4つの社会像の意義
3 展望年次・想定年次	4 性格と役割
5 構成	
第2部 兵庫の特性と潮流変化	
1 兵庫の特性	2 ビジョン策定後顕著になった時代潮流
第3部 県民意見、地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿	
1 県民意見から見ためざす姿の方向	2 地域ビジョンの改訂から見ためざすべき姿
第4部 見えてきた課題群	
1 「豊かな生活」を考えるうえでの課題	2 「世界に開かれた兵庫」を考えるうえでの課題
3 「持続する地域構造」を考えるうえでの課題	
第5部 これからの兵庫の将来像	
1 将来像の方向性	
2 兵庫の将来像	
<p>《創造的市民社会》 人と人のつながりで自立と安心を育む 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する 次代を支え挑戦する人を創る</p>	<p>《環境優先社会》 人と自然が共生する地域を創る 低炭素で資源を生かす先進地を創る 災害に強い安全安心な基盤を整える</p>
<p>《しごと活性社会》 未来を拓く産業の力を高める 地域と共に持続する産業を育む 生きがいにあふれたしごとを創る</p>	<p>《多彩な交流社会》 地域の交流・持続を支える基盤を整える 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ</p>
3 兵庫の未来像 - 創造と共生の舞台・兵庫 -	
第6部 将来像を実現するための基本戦略	
1 戦略の基本姿勢	2 各主体の主な役割
3 兵庫の可能性を開花させるための協働シナリオ	
<p>つながりによる家族・地域の再生 生涯健康で生き生きと活躍できるしくみと場づくり 地域と世界で活躍する次代の人づくり 国内外と一体で成長を生み出す産業づくり 地域を生かし共に持続する産業づくり 一人ひとりが持ち味を発揮できるしごとづくり</p>	<p>人と自然が共生した持続する地域づくり 低炭素・省資源による自立した地域づくり 災害に強い安全安心な地域づくり 確かな地域経営を支える交流・持続基盤づくり 個性を生かし自立する多彩で元気な地域づくり アジア交流圏による世界に開かれた兵庫づくり</p>
第7部 長期ビジョンを着実に実現するための指標のあり方	
1 これまでの取組	2 改訂後のビジョンに対応した新しい指標の考え方（地域力指標）
3 地域力指標のイメージ	4 地域力指標づくりの進め方